
ピクの紙ひこうき

中邑あつし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピクの紙ひこうき

【コード】

N0961BA

【作者名】

中邑あつし

【あらすじ】

ほんの些細なことが、取り返しのつかないことになることもあります。そんな教訓の後味の悪い童話です。

なんのへんてつもない小さな島。そんな島でタロとピクは楽しく毎日
を過ごしていました。

なにをするにもずっといつしよ。遊ぶときも、ごはんのときも。寝
るときだってふたりはいつしよ。

だけど、そんなある日、タロとピクは、ほんの小さなことで大きな
ケンカをしてしまいました。

タロは、ピクをたくさんきずつけました。ピクも、タロをたくさん
きずつけました。

タロは、ピクにもう会いたくない。ピクなんかいなくなってしまえ。
そんなことを思ってしまった。

そんなある朝、タロが家から外にとびだすと、外には大きな大きな
かべができていました。

そのかべは、どこまでもつづいて、はてが見えません。

その、大きな大きなかべは、小さな島をふたつにわけてしまったの
です。

タロとピクは、はなればなれ。ピクはかべの向こう。タロとピクは、
はなればなれ。

タロは、たくさん泣きました。ごめんなさい。ごめんなさい。
かべの向こうのピクに、なんどもあやまります。ごめんなさい。い

めんなさい。

タロは、ピクのなまえを呼びつづけました。なんども。なんども。でも、大きな大きなかべの向こうに、タロの声はとどきませんでした。

タロは、たくさん泣きました。だいすきなピクに会えなくて。あまりたくて。

そこには、タロの泣き声だけがひびきわたりました。

ピクとのたくさんのおもいでが、タロをかなしませます。

一緒にいたときのこと。たのしかったこと。おもしろかったこと。

タロとピクは、よく紙ひこうきを飛ばしてあそんだものです。

タロは紙ひこうきをとおくへ飛ばすのがとくいでした。

だけど、ピクはといえば、紙ひこうきを飛ばすのがにがてでした。

「そうだ」

タロは、ノートにてがみを書きました。そのノートをやぶって紙ひこうきをつくったのです。

ケンカのこと。それをあやまりたい気持ちでいっぱいなこと。かべができてからのおもい。

ピクにつたえたいことはたくさんあります。

タロは、3にち後の7月6日の朝に、紙ひこうきでへんじをくれるようにと書きました。

タロの飛ばした紙ひこうきは、大きな大きなかべをこえていきま
した。

タロはよろこびました。これでピクは、てがみを読んでもくれるはず
です。

やくそくの日の朝、タロは紙ひこうきを飛ばしたところまで行きま
した。だけど、紙ひこうきはありません。

タロは待ちました。だけど、夜になっても紙ひこうきが飛んでくる
ことはありませんでした。

「きつと、ピクはひにちをまちがえたんだ」

タロは、つぎの日もおなじばしょに行きました。だけど、紙ひこう
きはありません。つぎの日も。そして、つぎの日も。

だけど、タロのもとへ紙ひこうきが飛んでくることはありませんで
した。

タロとピクは、はなればなれ。ピクはかべの向こう。タロとピクは、
はなればなれ。

タロはたくさん泣きました。ごめんなさい。ごめんなさい。

そして、タロは、家から出なくなってしまいました。なんにちも、
なんにちも。

どのくらいひにちがたったのでしょうか、家の外には、かべがな
くなっていました。

タロは、いそいで外に出て、かべの向こうがわへと行きました。ピ
クと会うためです。

だけど、さがしても、さがしても、ピクはどこにもいません。

タロはピクの家へ行きました。だけど、ピクの家には、ピクも、ピクのお父さんも、お母さんもいませんでした。

物も、ひとつもありません。ピクは、もう、この小さな島にはいなかったのです。

タロは、かべがあつたばしょへ行きました。紙ひこうきを飛ばしたばしょです。

そこには、たくさんのお紙くずが落ちていました。

よく見ると、それは、たくさんのお紙ひこうきでした。

ボロボロになっていて、よく分からなかったけど。ピクのお紙ひこうき。

ピクは、タロに紙ひこうきで、へんじをかえそうとしていたのです。何度も、何度も。紙ひこうきを飛ばして。

だけど、紙ひこうきを飛ばすのがにがてだったピクは、大きな大きなかべの向こうに、紙ひこうきを飛ばすことができなかったのです。

落ちている紙ひこうきは、かたちがいろいろありました。

かべの向こうに飛ぶように、ひこうきのおりかたを変えて、つくっては飛ばして、つくっては飛ばして。

ピクにとっては、島をふたつにわけたかべは、タロがおもっているいじょうに、とても、とても大きなものだったのです。

ピクのおつくったたくさんのお紙ひこうきは、ちやいろのじめんを、しるく変えていました。

タロは、その紙ひこうきをひろげてみました。

タロへ。

ごめんなさい。だいすきなタロ。ごめんなさい。いっしょにいたいよ。会いたいよ。ごめんなさい。ごめんなさい。7月6日。

タロへ。

どうしよう。飛ばないよ、紙ひこうき。ごめんなさい。

ぼく、ひっこすことになったんだ。8月2日に。でもさ、それまでに、かべがなくなったら、いっぱい遊ぼうね。いっぱいいっしょにこはんたべようね。7月7日。

ピクの紙ひこうきには、ぜんぶ日づけが書いてありました。

ピクは、島をはなれるその日まで、なんども、なんども紙ひこうきを飛ばしていたのです。

タロは、なんにちも泣きつづけました。なんにちも、なんにちも。

タロとピクは、はなればなれ。ピクはうみの向こう。タロとピクは、はなればなれ。

そしてタロは、もうとどかないピクへの紙ひこうきを、うみの向こうがわへと飛ばしつづけるのです。

(後書き)

大人になったら、会えたら嬉しいですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0961ba/>

ピクの紙ひこうき

2012年1月2日03時52分発行